

水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成27年度実績)

平成28年12月

水俣市教育委員会

## 目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	3
点検・評価の結果について	
小中学校施設耐震化推進事業（非構造部材）	4
学力向上対策事業	6
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業	8
環境教育（学校版環境 I S O）の推進事業	10
小中学校における I C T 化の推進事業	12
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	14
人権教育推進事業	16
文化会館自主文化事業	18
日本一の読書のまちづくり事業	20
公民館自主事業	22
市民スポーツの推進事業	24

# 教育委員会の点検・評価について

## 1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

## 2 点検・評価の対象

点検・評価は、水俣市教育委員会に権限に属する事務のうち、次に掲げるものを対象としています。

- (1) 水俣市総合計画に掲載された事業
- (2) 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

## 3 点検・評価の流れ

点検・評価については、まず教育長が点検及び評価の対象とする事業を、各年度の事業の中から当該年度の当初に選定し、当該年度の末日現在で、実施状況評価表により点検及び評価を行います。その後点検及び評価を行った実施状況評価表について、教育に関し学識経験を有する点検評価委員に意見を求めます。最後に点検評価委員の意見が付された実施状況評価表について、教育委員会の会議において、最終評価を行います。

## 4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、点検評価委員2名から意見聴取（外部評価）をしています。

<参考>

## 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 教育委員の活動状況について

### 1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。平成26年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 4回

### 2 審議等の件数

#### (1) 審議事項 73件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	5
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	14
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	1
その他	37

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

#### (2) 協議事項 22件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

#### (3) 報告事項 52件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

### 3 水俣市教育委員名簿

平成28年3月31日現在

職名	氏名
委員長	荒木 由紀子
委員(委員長職務代理者)	河田 奈保子
委員	山田 誠次
委員	堀 浄信
委員(教育長)	吉本 哲裕

政策事業名	01	小中学校施設耐震化推進事業 (非構造部材)
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、地震発生時においては、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめることなど、十分な耐震性能を持たせて学校施設を整備することが重要である。

そのため、本市では平成21年度より小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化は全ての学校で完了した。しかしながら、体育館の天井材や照明器具、校舎の内外壁といった非構造部材については、耐震対策が万全ではなく、今後も平成25年度に策定した「非構造部材耐震化計画」に基づき、学校施設の安全対策を進めていく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】 (千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	32,612	19,440	△13,171

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	久木野小学校校舎の外壁補修工事の実施	久木野小学校体育館の吊り天井の撤去 水東小学校体育館の吊り天井の撤去 袋中学校校舎の外壁調査 (非構造部材)

■H27年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

地震発生時において、落下の危険がある水東小学校と久木野小学校の体育館の吊り天井を撤去し、児童の安全面を確保する。

また、袋中学校の外壁についても、剥落・爆裂等の対策を行うための外壁調査を実施する。

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	久木野小学校校舎の外壁補修工事の完了	久木野小学校体育館の吊り天井の撤去の完了 水東小学校体育館の吊り天井の撤去の完了 袋中学校校舎の外壁調査 (非構造部材) の完了

■H27年度実績の説明 (目標に対してどの程度達成したか)

水東小学校及び久木野小学校の体育館の吊り天井撤去を無事完了することができた。

袋中学校の外壁調査についても、調査が完了し次年度以降補修工事を実施予定。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	計画どおり施工できたため				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3	工期内に竣工できたため				
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
<b>【総合評価】</b> A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~-1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4点
評価	点数						
B	4点						

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
今後も計画的に非構造部材の耐震性の確保に努めていく。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
平成34年までの長期計画をもとに実施しているが、学校施設の特異性 (地域住民の応急避難場所としての機能等) を念頭に、常に財政課と協議しながら、事業の前倒しを提案していく。					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
「非構造部材耐震化計画」に基づき、着実に市内小中学校の天井、照明器具、外壁などの耐震化が図られている。児童生徒の生命を守り、日々の教育活動に支障がないよう配慮されており、一市民として安心できる。					

### 6. 総評

大地震は予測できないため、すぐにも全校の調査・対策を実施し、児童生徒の安全確保を確実なものとしておくべきである。本事業は生命にかかわる事業であり、計画的かつ迅速に進める必要があるため、予算獲得には、市はもちろん県、市議会、県議会、国会議員なども力を合わせて取り組んでほしい。

政策事業名	02	学力向上対策事業
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

## 1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

水俣市の児童生徒の学力向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めるものである。児童生徒の学力向上に向けて、教師の資質向上や授業力向上、地域に開かれた学校運営を目指し、様々な角度から目的・目標に迫れるよう事業を推進する。

## 2. 投入経費と指標

## (1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	2,780	2,730	△50

## (2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	学力向上宣言を見直し、児童生徒の実態に即した内容に改めるとともに、活用方法を検討する。学力向上委員会の構成員について、小学校教諭の割合を増やす。	学力向上宣言を見直し、児童生徒の実態に即した内容に改めるとともに、活用方法を検討する。学力向上委員会の構成員について、次年度も現在の小学校教諭の割合を維持する。

## ■H27年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・学力向上宣言に基づく各学校の具体的取組の状況を調査し、実効性を検証するとともに、改善策を提言する。
- ・学力向上研究推進指定校（水俣第一小学校）として児童の確かな学力を育成する実践的な研究に取り組む。また、学校図書館活用研究推進校（葛渡小学校、水俣第二中学校）において図書館の活用、児童生徒の読書習慣の形成等について取り組む。
- ・第11回みなまた教育フォーラムを開催し、本市が目指す教育実践、先行事例等について研修を行う。
- ・年3回の教育セミナーを開催し、本市の教育課題、学校・教職員のニーズに応じた内容の研修を行う。

## (3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上委員会、水俣科推進委員会、学校開放推進委員会の3つの委員会で、事業推進を行った。</li> <li>・学校図書館活用研究推進校（葛渡小、水俣第二中）の中間報告会を行った。</li> <li>・第10回みなまた教育フォーラムの実施</li> <li>・年3回の教育セミナーの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育改革プロジェクトの学力向上委員会、水俣科・学校開放推進委員会、道徳教育推進委員会の3つの委員会で、事業推進を行った。</li> <li>・学力向上研究推進指定校（水俣第一小）と学校図書館活用研究推進校（葛渡小、水俣第二中）が研究発表会を開催した。</li> <li>・第11回みなまた教育フォーラムの実施</li> <li>・年3回の教育セミナーの実施</li> </ul>

## ■H27年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・学力向上宣言に基づく各学校の具体的取組の状況を調査し、昨年度の県学力調査において水俣市で定着率が低い問題から「ゆうチャレンジ抜粋問題（水俣市）」を作成し、各学校が授業や補充指導などで活用した。
- ・水俣第一小は算数科指導の在り方、葛渡小と水俣第二中は授業における図書館の活用、児童生徒の読書習慣の形成等について、研究発表会で研究内容や取組、成果について発表した。
- ・みなまた教育フォーラムでは、基本的な生活習慣の定着の取組、地域との連携の取組の発表と、学校教育改革プロジェクト3つ委員会の活動報告を行った。
- ・年3回の教育セミナーでは、県義務教育課教育審議員による全国学力・学習状況調査の分析・活用、西合志南中学校長による道徳教育についての講話、元校長による教師としてのあり方・姿勢などについて講演会を開催した。



### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	・今年度の水俣市の県学力調査の結果は、各教科の領域や観点の項目のうち、小学校64%、中学校68%の項目で、県平均を上回った。教科間や学年間で、定着率にやや差があった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	・学校教育改革プロジェクト会議は、計画通りに進められた。 ・みなまた教育フォーラム、教育セミナーともに教職員の満足感が高かったが、フォーラムについては日程にゆとりが必要であった。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)  
 B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)  
 C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)  
 D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
A	6 点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力調査結果における教科間差や学年差を解消するための方策を検討する。</li> <li>・総合的な学習の時間等を活用した郷土学習「水俣科」の充実のために、地域人材をさらに活用する必要がある。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度見直した水俣市学力向上宣言の重点事項の取組を徹底し、児童生徒の実態に即した授業づくりを検討する。</li> <li>・地域人材の情報の収集と整理を行う。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

児童生徒の学力向上は、保護者・地域社会の関心が高い事項である。学力向上の一つの指標である県・全国学力調査で結果が現れるよう今後も頑張っていたきたい。ただし、学校教育改革プロジェクトの主旨はすばらしいが、その実施が教職員の多忙化に拍車をかけていないか懸念がある。学力向上を達成するためにも、教職員が、子ども達とじっくり向き合い、信頼関係を築く時間を確保できるよう配慮がほしい。

### 6. 総評

学校教育改革プログラム、教育フォーラム等で回数を重ねて、実績を残してきたが、惰性により、目的が曖昧になり、委員会の方針が明確でなく、事業の効果が現れていない。学校教育改革の理念の提示と実践力の発揮により、対症療法のみならず、人が変わっても取り組みの効果を持続するため、「勤勉な空気感」の醸成のような体質改善といった思い切った見直しが必要である。

政策事業名	03	いじめ、虐待、不登校児童対策事業
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

いじめ、虐待、不登校の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、子ども自立支援室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
		2,879	2,504

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	子ども自立支援室の事業構想を見直し、不登校解消に向けた積極的な取組を行う。 いじめ未然防止を中心とする県の委託事業自立支援事業の推進を図る。	子ども自立支援室の指導員を充実し、不登校解消に向けた積極的な取組を行う。 自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会で推進を図る。

■H27年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

- 子ども自立支援室において、各学校に在籍する不登校・不登校傾向の児童生徒を支援する。
- 自立支援事業連絡協議会において、いじめ防止部会、虐待防止部会、不登校対策部会の3つの部会で各学校の実態、早期発見・早期解決の取組を紹介するとともに、積極的な具体策を検討する。
- 中学校ブロックで、地域にいじめ等の情報を提供し、学校と地域が連携して取組を行うために「中学校ブロックいじめ対策委員会」を充実する。

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	子ども自立支援室指導員による児童生徒の支援体制が充実した。 いじめ未然防止を中心とする県のいじめの防止等対策モデル事業の推進を図ることができた。	子ども自立支援室指導員による児童生徒の支援体制が充実した。 自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会で、未然防止や早期発見・早期解決について対策を検討することができた。

■H27年度実績の説明 (目標に対してどの程度達成したか)

- 子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を支援した。
- 自立支援事業連絡協議会において、水俣市のいじめ、虐待、不登校の状況を報告し、未然防止や早期発見・早期解決の取組について検討しながら対策を図った。
- 8月に市内すべての小中学校の児童会生徒会が参加し、合同リーダー研修会を実施し、児童生徒が中心となっていじめの起きにくい学校づくりの取組を行った。
- 「中学校ブロックいじめ対策委員会」を中心に、学校と地域が連携し、登校時間のあいさつ運動などを行うことができた。
- 11月にいじめの未然防止の研究発表会を開催した。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の児童生徒数は昨年度より半減した。</li> <li>・いじめ調査結果については、小中学校ともに昨年度の人数より減少した。学校の認知件数は半減した。</li> </ul>
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援事業連絡協議会は従来の3つの部会に戻したが、3部会をさらに機能させる必要がある。</li> <li>・児童会生徒会リーダー研修会は、全ての小中学校が参加し、児童生徒が中心となり、いじめの未然防止に取り組むことができた。</li> </ul>
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
A	6 点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援事業連絡協議会において、いじめ、虐待、不登校の3つの部会を機能させ、推進を図る。</li> <li>・不登校児童生徒は減少したが、病気等の理由で欠席が多い児童生徒を減少させる必要がある。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止は、児童会生徒会がリーダーシップを取るとともに、全校児童生徒で取り組んでいけるようにする。</li> <li>・子ども自立支援室の体制を充実させるとともに、相談員が各学校と連携しながら保護者等に適切な指導助言を行えるようにする。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

全小中学校の児童会生徒会の、合同リーダー研修会を実施し、児童生徒が中心となっていじめの起きにくい学校づくりのための取組を行ったこと、学校現場、幼・保・警察や民間等と連携しながら支援体制を整えたことが評価できる。不登校の児童生徒の数が少ない現状を考えると、児童生徒と教師がじっくり向き合う時間を確保し、保護者及び地域社会の協力を得て、対策を講じる必要がある。

### 6. 総評

自立支援事業連絡協議会において、「いじめ」「虐待」「不登校」の三部会に戻したことは評価できるが、成果がどのように反映されているのかわからないため、活動報告と実践発表の場の設定をしていただきたい。また不登校の児童生徒には、家庭環境や成育の状況などの個々の問題があり、学校教育のみならず各方面からの手立てが必要であるとともに、個別心理的取組みが重要で、学校・教師の考え方、意識をよりよい方向へ導く必要があると思う。

政策事業名	04	環境教育（学校版環境 I S O 等）の推進
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

水俣病を教訓とした環境学習や水俣市学校版環境 I S O の取り組みを継続するとともに、環境モデル都市として、さらに環境教育の充実を図っていく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H 2 7 年度	増減
	0	0	0

(2) 【活動目標】

	前年度	H 2 7 年度
目標	各学校における学校版環境 I S O（水俣市版・熊本県版）の取組の充実及び環境教育の充実を図る。	各学校における水俣病を教訓とした環境学習、学校版環境 I S O（水俣市版・熊本県版）の取組の充実を図る。水銀について理解を深めてもらい環境教育の充実を図る。

■H 2 7 年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・水俣市学校版環境 I S O の取組の継続。
- ・熊本県教育委員会主催「学校版環境 I S O コンクール」への市内全小中学校の参加。
- ・県事業「水俣に学ぶ肥後っ子教室」での水俣病資料館、県環境センター等での校外学習。
- ・環境省水俣市共催による「水銀に関する水俣条約採択 2 周年記念事業」において、水銀に関する出前授業の開催や、水銀対策に関する企業への現地取材、フォーラムにおける発表等を行い、水銀について理解を深める。

(3) 【実績】

	前年度	H 2 7 年度
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣市学校版環境 I S O の取組を継続した。</li> <li>・市小中学校環境教育担当者会を実施した。</li> <li>・全小中学校が熊本県環境 I S O コンクールへ参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣市学校版環境 I S O の取組を継続した。</li> <li>・全小中学校が熊本県環境 I S O コンクールへ参加した。</li> <li>・市小中学校環境教育担当者会を実施した。</li> <li>・「水銀に関する水俣条約採択 2 周年記念行事」に参加し、水銀対策に関する企業への現地取材等を行った。</li> </ul>

■H 2 7 年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・学校版環境 I S O の取組の継続。
- ・熊本県環境 I S O コンクールへ市内全小中学校が参加し、第一中学校が最優秀賞、久木野小が優秀賞を獲得した。
- ・小中学校環境担当者研修会（5 月 2 6 日）を実施し、環境課による講話、第二中学校による実践報告を行った。
- ・水銀についての理解を深めるため、市内中学生 8 名が関東と北海道に分かれ、水銀対策に関する企業への現地取材を行い、「水銀に関する水俣条約採択 2 周年記念行事」において発表した。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	・ I S Oの取組は、日常的な活動として、児童・生徒に定着している。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	・ 小学校低学年から中学校まで、成長段階に合わせて無理なく取組がなされている。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>・平成12年度から続いている学校版環境 I S Oの取組を、今後も市内全校で継続していく。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>・学校版 I S Oの取組も16年目を迎え、多少のマンネリ化も見られるが、環境課との連携を進め、環境教育の更なる充実を図るとともに、学校間の交流等により、相互に切磋琢磨していく。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>環境教育の先進地として、市内小中学校の全校が学校版環境 I S O に励み、毎年の県学校版環境 I S O コンクールに参加し、上位に入賞していることは素晴らしいことである。その活動内容を学校だけではなく、市民にも公開してほしい。また教職員、児童生徒の加重負担とならないよう配慮しつつ、現状維持していただきたい。</p>					

### 6. 総評

学校では毎年生徒たちは入れ替わっていくので学校版環境 I S Oのような取組を、変えることなく継続していくことは、必要なことと思う。県や国の事業の活用により、水俣の児童生徒の環境への意識高揚、実践力の向上につなげていることはいいことであるが、市の予算0というのは環境首都みなまたとしては少々寂しく思う。県教委の学校版 I S O推進事業の終了に伴い、市独自の施策を考えたほうがよい。

政策事業名	05	小中学校におけるICT化の推進
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

電子黒板やタブレット型パソコンなどの情報機器を用いた「教育の情報化」が全国的に進む中、本市でも情報機器の導入を推進する。児童・生徒により分かりやすい授業を提供し、学力の向上を図るとともに、教職員の負担軽減を目的とする。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
		5,322	1,944

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	電子黒板を市内の全小中学校(11校)へ各1台ずつ設置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器の有効活用について検討し、平成28年度以降の機器の導入について計画書を作成する。</li> <li>水俣第一中学校特別支援学級に電子黒板とタブレットを導入する。</li> </ul>

■H27年度活動目標の説明(事業として何をするか)

情報機器の導入及び活用方法の研究。

情報機器の導入計画書の作成。

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	電子黒板を市内の全小中学校(11校)へ各1台ずつ設置した。	水俣第一中学校特別支援学級に電子黒板1台、タブレット10台を導入した。

■H27年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

特別支援学級に情報機器を導入することができた。

有効に活用するための研修については、水俣第一中学校特別支援学級において、納入業者による情報機器操作に関する研修が実施でき、教職員のスキルアップが図られた。

機器導入の計画書の作成までには至らなかった。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由				
○	想定以上に成果があがった	4	特別支援教育分野へのICTの導入。				
	想定どおりの成果であった	2					
	想定を下回った	0					
	想定を大きく下回った	-1					
(2) 効率性		点数	理由				
○	大変効率よくできた	3					
	概ね効率よくできた	2					
	効率がよくなかった	1					
	全く効率が悪かった	0					
<b>【総合評価】</b>							
A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点) B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点) C 早急の見直しが必要なもの (3~2点) D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)			<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>点数</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4 点</td> </tr> </table>	評価	点数	B	4 点
評価	点数						
B	4 点						

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
電子黒板については、各校台数が少なく、多くの教職員が使用できない状況にあるため、整備を進める必要がある。					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
大型テレビ導入から5年を経過するため、買換え時に電子黒板を導入する。					

5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
情報機器の導入の目的は、児童生徒にわかりやすい授業を提供し、学力の向上を図るとともに、教職員の負担軽減につながるべきものである。教師・児童生徒にICT機器の操作技術の習得機会を設け、有効に使用してもらいたい。また機器の導入に関しては、現有の機器の活用状況や現場のニーズを、十分に検証してもらいたい。					

6. 総評

機器の導入には多くの予算を要するため、文部科学省ばかりでなく他の省庁や民間企業等の委託事業や補助事業等を利用して進めてほしい。ICT化の推進については、他に優先すべき事項があると思われ、ただし、まず機器の導入ありきではなく、学校との意見交換等により教育現場の状況を把握し、ニーズに応じた計画推進が望まれる。

政策事業名	06	給食センターにおける食育・地産地消推進事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として食育を推進する。  
 また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った水俣・芦北メニューなどの献立を実施して、地産地消を推進する。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】 (千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	90,876	85,973	△4,903

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	1.食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施、見学、視察、試食会、研修会の実施 2.地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実	1.食育の推進 食に関する指導、アレルギー対応食の実施 見学、視察、試食会、研修会の実施 2.地産地消の推進 地場産食材の増加、献立充実

■H27年度活動目標の説明 (事業として何をするか)

食育の推進として、食に関する指導、ふれあい給食懇話会 (試食会) やアレルギー対応食を実施し、また、見学、視察、試食会、センターまつりを実施し、給食センターを食育の拠点として活用した事業を推進する。

また、地場産食材を使用した給食「水俣・芦北メニュー」、郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、菜種・菜の花新芽の体験学習を行い、生産者と連携した地産地消を推進する。

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	1.食に関する指導60回、見学13回、視察7回、試食会24回、親子料理教室7回 2.地産地消の推進 地場産食材納入品目44品 収穫体験学習2校実施	1.食に関する指導62回、見学13回、視察1回、試食会30回、親子料理教室5回 2.地場産食材納入品目34品、収穫体験学習2校実施

■H27年度実績の説明 (目標に対してどの程度達成したか)

食育の推進としては、食に関する指導、給食試食会を各学校で実施した。給食センターの見学、視察、試食会、夏休みの給食センターまつりを実施して、充実した活用ができた。アレルギー対応食を30名、特別食2名に実施し、個々に応じた食育を推進した。また、芦北管内の衛生管理研修を当給食センターで実施し、調理場内の衛生について研修した。地場産食材納入品目は、ウインナー・豚肉・たけのこが通年水俣産になったが、大雨・台風など、野菜の品不足で34品目となった

菜種・菜の花の新芽の体験学習を2校で実施した。



3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	地元産の納入食材（ウインナー、豚肉、たけのこ）が通年水俣産になった。 食に関する訪問指導や給食懇話会など、昨年より回数多く実施でき、充実した活動となった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	芦北管内の衛生管理研修を当給食センターで実施し効率のよい衛生管理について研修、改善した。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点）
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）
- C 早急の見直しが必要なもの（3～2点）
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）

評価	点数
A	6 点

4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>アレルギー対応食については、栄養教諭、アレルギー対応専門調理補助員、配送前のチェックと3人でやっているが、人命に関わることから、アレルギー対応食調理後にもう1段階のチェックがほしいと考えている。調理現場の人と配置について協議したい。</p> <p>また、今後も、学校、家庭、医療機関、給食センターと連携を強化し、確実に取り組んでいくことが課題である。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>アレルギー対応食については、調理現場の人員配置の検討する。</p> <p>地産地消については農林水産課等との情報交換を行い、安全な産品か現地調査等を実施し、信頼の置ける地場農家を増やしていく。</p>					

5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>食育の拠点として、食に関する指導や、親子料理教室、アレルギー対応食、地場産食材の使用等の多岐に渡る事業を少ない職員で推進し、多大な効果をあげている。今後は、無理が生じないよう、事業を可能な限り見直し統合して減らすか、職員の増員をするか方向性が検討されるべきである。</p>					

6. 総評

アレルギー対応食に対する細かな気遣い、地場産食材利用による農業等の活性化等、地域に開かれた給食センターまつりなど、他市町村に誇れる活動をしている。しかし、一度のミスも許されない業務の性格上、現在の限られた人数体制で業務管理は大変なことと思われる。今後継続して安全な配食を提供するため、職員の配置について検討すべきである。

政策事業名	07	人権教育推進事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

## 1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

地域住民が人権問題をより身近なものとして捉え、気軽に学習できる機会を増やすための講座等を実施し、本市の抱える水俣病問題をはじめ、様々な人権問題に対する理解と認識を深め、あらゆる差別の解消を促すための事業を展開する。

## 2. 投入経費と指標

## (1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	2,232	2,380	148

## (2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーを実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施 3) 水俣市内を中心とした出前講座の実施

## ■H27年度活動目標の説明（事業として何をするか）

参加体験型学習を中心とした、基本的な人権学習をテーマに、様々な場所で講座を実施し、住民が参加しやすい講座を展開していく。また、事務局として2年目になる水俣・芦北地区人権教育研究大会については、昨年度の参加者アンケートを参考に、参加者のニーズを把握し、的確な人権啓発を図る。

## (3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施	1) ヒューマンライツ・セミナーの実施 (中学生コース8名参加・一般コース延べ20名参加) 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施(昨年度参加者微増) 3) 水俣市内を中心とした出前講座の実施(親子対象:15名参加 一般市民対象:9名参加)

## ■H27年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

## 1) ヒューマンライツ・セミナー

「中学生コース」、「一般コース」の2つのコースを設け、セミナーの募集対象を拡大して実施した。中学生コースは市内中学校から8名の参加があり、昨年度よりも参加者の増加がみられた。一般コースは今年度から新たに参加体験型学習を中心とした基本的な人権学習をテーマにした講座を3回シリーズで実施し、延べ20人が参加した。

## 2) 水俣・芦北地区人権教育研究大会の実施

8月21日（金）に開催した。昨年度実施した際にとった参加者アンケートに基づき、市民が関心を寄せる人権課題を全体会、各分科会のテーマにすることで、参加者の増加を図った。その結果、昨年度よりもわずかではあるが増加がみられた。

## 3) 水俣市内を中心とした出前講座の実施

こどもセンターでは親子を対象に、いきいき教室では一般市民の方を対象に、それぞれの参加者に合わせた内容で参加体験型学習を実施した。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	セミナーでは、募集対象を拡大したり、身近なテーマを設定して参加しやすくしたので、受講者の年齢層が広がった。また、研究大会では、前年度のアンケートを参考に、要望等をふまえて内容を構成したため、予定どおりの参加者を確保できた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	研究大会では、段取りにおける前年度の反省点を改善して取り組んだため、準備やリハーサルをスムーズに行うことができた。また、出前講座で、こちらから出向くことで、参加しやすい環境をつくることができた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>課題) 研究大会や講座等の参加者が固定化されてきており、新規の参加者、受講者が少ない。また、出前講座においても、企業への啓発ができていない。また、啓発活動の成果が目に見える形にできていない。</p> <p>方向性) 講座については、今年度に引き続き参加体験型学習を中心に、市民が参加しやすく、わかりやすい講座を地道に継続していく。企業への積極的な情報発信を行う。研究大会については、より多くの参加者を確保できるように、周知方法や参加体制を検討する。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>新規の参加者を確保していくため、市内の様々な場所で講座を開催する。また、周知方法も、市報だけではなく、市のホームページなどインターネット等を利用した周知も行う。事業の成果については受講者の学習成果発表会等の場を設けたり、また、アンケートをとりその結果を数値化、分析したりするなど、成果が目に見える事業を実施していく。</p>					

5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

ヒューマンライツセミナーは、「中学生コース」「一般コース」の二つのコースで実施され、充実した内容であった。参加者に合った内容の体験型学習の出前講座や他地域に足を運び学習する形式は、すばらしい取組みだと思う。

6. 総評

出前講座を子どもセンターや公民館等の事業と組み合わせ、参加しやすい仕組みにしたり、身近な人権問題をテーマにするなど、事業実施の際の工夫をこらすことで、以前と比べ参加者が増えてきているのは喜ばしいことである。更に他の部局と連携し、地域での集まりに出かけていくこと等で、啓発の機会が増加し、より市民全体に啓発が進められると思う。

政策事業名	08	文化会館自主文化事業
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

## 1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

目的：生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。  
また、単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

内容：文化会館における公演の実施  
芸術劇場・児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。  
一般公演・様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1～2本の上演を行う。

## 2. 投入経費と指標

## (1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	2,226	4,527	2,301

## (2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	小学校芸術劇場（演劇） 宝くじ文化公演の実施	中学校芸術劇場の実施 一般公演1本の実施

## ■H27年度活動目標の説明（事業として何をするか）

## 1. 中学校芸術劇場「スクラップ」（株式会社笑う猫）

開催日：平成27年11月27日（金） 対象者：市内中学校生徒

内容：環境をテーマに繰り広げられる創造の世界を舞台とするミュージカル。

## 2. 劇団四季ファミリーミュージカル「むかしむかしゾウがきた」（劇団四季）

開催日：平成28年2月7日（日） 目標入場率：80% 有料公演

内容：水俣でも根強い人気を誇る劇団四季によるファミリー向けのミュージカル。

## (3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	・宝くじ文化公演「三遊亭歌之介 独演会」（自治総合センター） ・小学校劇術劇場「どんぐりと山 猫」（劇団わらび座）	・中学校芸術劇場「スクラップ」（株式会社笑う猫） ・劇団四季ファミリーミュージカル「むかしむかしゾウがきた」 （劇団四季）

## ■H27年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

## 1. 中学校芸術劇場「スクラップ」（株式会社笑う猫）

平成27年11月27日実施、市内中学校生徒、引率等合計706名が鑑賞。環境をテーマにしたミュージカルであり、迫力あるダンス、歌、演技等を通じ生徒に環境問題を再度考えていただけた。

## 2. 劇団四季ファミリーミュージカル「むかしむかしゾウがきた」（劇団四季）

平成28年2月7日実施、座席数：906席、チケット販売枚数：547枚、入場者数：526名 入場率：58% 広報を行いチケットの販促に勤めたが、目標値の80%を達成できなかった。しかし、近年自主文化事業で実施できなかった家族向けの公演を実施でき、家族で舞台公演を楽しむ機会を提供することが出来た。

3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	劇団四季ミュージカルは目標入場率 80%を達成することが出来なかったが、近年自主文化事業で実施できなかった家族で舞台公演を楽しむ機会を提供することでできたため、目的は達成できたと判断した。 芸術劇場については事業目的を達成できたと判断した。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	両公演とも各団体との連絡や準備等を入念に行い、スムーズに行うことが出来た。 当日も大きなトラブルもなく無事に終わることが出来た。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>演目を集客率や知名度の高さだけで選定してしまうと、ジャンルに偏りが生じたり、公演委託料が高くなってしまふなどの弊害がある。</p> <p>限られた予算の中で事業効果を高めるためにも、幅広いジャンルから演目を選定し、助成や補助金を活用したり、効果的な広報活動を行うなどして、多くの市民へ質の高い文化芸術を提供していきたい。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>市民の関心が高いジャンルや時流に応じた演目を選定することで市民の教養を高め、文化の向上を図っていく。また、効果的な広報活動を行うことで集客率を高め、多くの市民が気軽に文化芸術を鑑賞できるようにしていく。</p> <p>次世代を担う子どもたちに対しても、豊かな心や感性を刺激し育てていくような演目を増やして、鑑賞の機会を提供し続けていく。</p>					

5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>中学校芸術劇場「スクラップ」は、本市の環境モデル都市にふさわしい環境をテーマにしたミュージカルで良かった。劇団四季ファミリーミュージカル「むかしむかしゾウがきた」は、家族向けですばらしい内容であったが、入場率が58%と低調であったのはもったいない。入場料が高かったか、広報が不十分だったかなどの原因が考えられるが、今後集客率を高めるための手立てが望まれる。</p>					

6. 総評

一昔前に比べると、公共・民間ともに公演が減っているように思う。文化事業の充実は市民生活の向上につながるため、さらに工夫を重ね、狂言などの伝統芸能も視野に入れ、市民特に子どもの文化に対する意識高揚を図ってほしい。

政策事業名	09	日本一の読書のまちづくり
種別	1. 総合計画による重点事業 2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策	

1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

「日本一の読書のまちづくり計画」に基づき、「すべての市民が読書に親しみ、人生をより深く生きる生命(いのち)安らぐまちづくり」を目的に、読書活動推進のための図書館を核とする様々な事業を展開していく。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
	11,984	7,203	△4,781

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなまた環境絵本大賞作品出版</li> <li>・ぐるりんぱブックスタート実施</li> <li>・移動図書館、動く絵本館活用推進</li> <li>・読書のまちづくり人材育成支援</li> <li>・「本読み場」設置推進</li> <li>・淇水文庫旧蔵書籍の保管、整理促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回水俣環境絵本大賞作品募集、各賞決定</li> <li>・ぐるりんぱブックスタート実施</li> <li>・よんでよんでセカンドブック開始（新規）</li> <li>・移動図書館、動く絵本館活用促進</li> <li>・読書のまちづくり</li> <li>・淇水文庫旧蔵書籍の保管、整理促進</li> </ul>

■H27年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・環境絵本大賞作品募集等：第4回環境絵本大賞等の各賞決定。授賞式の執行。
- ・ブックスタート：0歳児全員に4ヶ月健診時に最初の絵本を贈呈（図書館が本を選定）
- ・セカンドブック：就学前年長児全員に2冊目となる絵本を贈呈（新規事業、保護者と児で本を選定）
- ・移動図書館、動く絵本館活用促進：そほう号巡回・みなよむ号派遣
- ・読書のまちづくり：童話発表大会、読書感想文・標語コンクール、ワークショップほか。
- ・淇水文庫旧蔵書籍の保管、整理促進：県立大学の地域貢献事業により実施（2年目）

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回環境絵本大賞作品出版</li> <li>・ぐるりんぱブックスタート実施</li> <li>・移動図書館等、巡回・派遣等実施</li> <li>・読書のまちづくり各種行事実施</li> <li>・淇水文庫旧蔵書籍整理等一部実施</li> <li>・読書のまちづくり人材支援事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回環境絵本大賞の各賞決定、授賞式執行</li> <li>・ぐるりんぱブックスタート実施</li> <li>・よんでよんでセカンドブック実施（新規）</li> <li>・移動図書館等、巡回・派遣等実施</li> <li>・読書のまちづくり各種行事実施</li> <li>・淇水文庫旧蔵書籍整理等継続実施</li> <li>・読書のまちづくり人材育成支援事業</li> </ul>

■H27年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

- ・第4回環境絵本大賞作品募集・各賞決定、授賞式執行（応募数223編、大賞「蝶々の帰る道」沖縄県、受賞式3月26日実施）
- ・ぐるりんぱブックスタート実施（196人に贈呈）津奈木町分27人分含む
- ・よんでよんでセカンドブック実施（193人に贈呈、新規事業）
- ・移動図書館等巡回、派遣等実施（そほう号巡回 44箇所、みなよむ号派遣 66件 3,184人利用）
- ・読書のまちづくり各種行事実施（童話発表大会（市大会・芦北地区大会）、読書感想文・標語コンクール、図書館まつり、古本市（年2回）、高校生ポップ選手権、童話教室（毎月）、本よみ場設置及びガイドマップ作成ほか実施）
- ・淇水文庫旧蔵書籍整理等継続実施（県立大学へ事業適用申請、採択後実施（前年度から継続採用））

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	耐震改修工事を実施したため長期の休館や数回の終日休館を余儀なくされたが、図書館の利用者数や貸出数もほぼ前年並みであった。乳幼児への2冊目の絵本贈呈となるセカンドブック事業（新規）も各保育園の協力により贈呈式を全園で実施できた。環境絵本大賞事業は、前回と同数程度の多くの応募があった。読書のまちづくり人材育成支援事業は市内書店と連携のうえ3名を雇用して各種事業を実施。事業終了後、そのうち1名が市内書店での雇用に繋がった。他の事業も概ね順調に実施できた。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	前年度より正規職員が1名減となった状態でのスタートであったこと、耐震工事による相当量の蔵書を移動しての運営など、業務推進するうえで各自負担増であったが、全員で協力しあい概ね効率よくできた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの（7～6点）
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの（5～4点）
- C 早急の見直しが必要なもの（3～2点）
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの（1～1点）

評価	点数
A	6 点

### 4. 今後の方向性（課題と見直し）

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境絵本大賞事業を始め各事業の事務量は、年々増加していることから、労力に見合うようにすることも考えていくべきである。</li> <li>・洪水文庫旧蔵書籍の整理を進め、その活用を考えていくべきである。</li> </ul>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種事業内容の見直しを行い、労力に見合うようある程度のスクラップを行う。</li> <li>・郷土作家等の資料の整理保管、特に洪水文庫旧蔵書籍については、同志社大学や県立大学の支援により、本のタイトルなどのデータベース化ができたので、ある程度の情報をリーフレットなどに作成し、発信していく。</li> </ul>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

どの取組みも時代にマッチしたものであり、特にみなまた環境絵本大賞作品募集などの取組みは、環境モデル都市水俣にふさわしい事業である。市内書店との連携がよくなされており、更に色々なアイデアが生まれてくると思われる。

### 6. 総評

セカンドブックのような新しい企画が加えられ、読書をより身近なものにしようという事業の充実が図られている。また図書館の掲示や対応等の雰囲気はよくなり利用者も増えてきている。水俣市の教育や施策の目玉として、今後も発展させ、市全体での「文化」に対する考え方を成長させることが必要である。

政策事業名	10	公民館自主事業
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

## 1. 政策の目的・目標（複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること）

市民の生涯学習活動の活性化を図ることを目的に、多様な学習機会や集いの場を提供するための市民教室や教養講座などを実施する。

## 2. 投入経費と指標

## (1) 【投入経費】

(千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
		2,014	1,765

## (2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目 標	市民教室 23教室 390人	市民教室 20教室 300人
	いきいき教室 不定期 200人	いきいき教室 不定期 200人
	生涯学習フェスティバル 1,000人	生涯学習フェスティバル 1,000人

## ■H27年度活動目標の説明（事業として何をするか）

- ・市民教室 : 受講生の増加と新規教室の増加を図る。
- ・いきいき教室 : 一つのテーマを連続シリーズで開催する。
- ・生涯学習フェスティバル : 展示・発表内容の充実と来場者の増加を図る。

## (3) 【実績】

	前年度	H27年度
実 績	市民教室 25教室 384人	市民教室 20教室 259人
	いきいき教室 5回 170人	いきいき教室 5回 130人
	生涯学習フェスティバル 1,786人	生涯学習フェスティバル 1,267人

## ■H27年度実績の説明（目標に対してどの程度達成したか）

市民教室の受講者数は、3年連続となった受講生が減った分前年度より教室、受講者ともに減少となった。新規教室については、オカリナ・ハワイアンジュエリーメイキング・タブレットの3教室が開講し一定の成果は見られた。

いきいき教室はシリーズ物に取り組むなどしたが、結果的に受講者の増加にはならなかった。

生涯学習フェスティバルは内容的には充実したものとなったが、PR不足などもあり来場者の増加にはならなかった。



### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	市民教室は3年連続で受講した人は受信できなくなることで、いくつかの教室で定員に満たなかったり、開講できない教室もあった。 いきいき教室・生涯学習フスティバルについては、PR不足などもあり参加者の増加につながらなかった。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	受講者の減少が見込まれるなか20の教室が開講、うち3つの教室が新規開講となった。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>市民教室については、このままでは3年連続で受講した人が教室を辞めていき、受講者の減少に歯止めがかからなくなることが予想される。市民の生涯学習の場として市民教室の実施は必要であり、新規講座の開設や受講者の増加へ向けた検討を行うべきである。</p> <p>いきいき教室については、地域において様々な講座などが実施されており、市民の足が向かない傾向にある。対象者の見直しも検討課題ではないかと考える。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>市民教室については3年連続しか受講できないという基本的なものは堅持しつつ、受講者数の状況を見ながら柔軟な対応を検討すべきと考える。</p> <p>いきいき教室については集客も大切ではあるが、市民がどんなものに興味や関心があるかなども考えながら、受講対象者なども検討する必要がある。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了

市民教室は市民の教養や知識、技術等を高める生涯学習として極めて有効と考える。しかし、市民教室を3年連続で受講した人は、自主サークルにステップアップしてもらおうという方針を、新規拡大の意味で導入したものの、結果として受講者・新規教室とも減少となっている。生涯学習という観点から今後は初心者対象のクラスだけではなく、中級者コースを設けるなど、一人でも多くの人に参加できるよう工夫がほしい。

### 6. 総評

公民館は市民の生涯学習の拠点である。市民教室については趣味、教養ばかりでなく、公民館自らが現代の課題や、地域の課題を把握し、ニーズにあった事業を行うことが必要である。事業を平日に行うことが、参加対象の枠を制限することにつながったり、講座のネーミングの付け方やテーマによって参加率は変わってくるので、職員の創意工夫による参加者の広がり期待したい。

政策事業名	11	生涯スポーツ活動及び競技スポーツの推進
種別	1. 総合計画による重点事業	2. 市長マニフェストによる事業 3. その他の重要政策

1. 政策の目的・目標 (複数年度にわたる事業については事業の全容にふれること)

市民のニーズにあったスポーツ大会等の企画、運営により、子どもから高齢者（障がいをもつ人を含む。）まで、誰もが生涯を通じて気軽に参加できる生涯スポーツの推進と競技スポーツの振興に取り組む。

2. 投入経費と指標

(1) 【投入経費】 (千円)

事業費	前年度	H27年度	増減
		5,219	7,935

(2) 【活動目標】

	前年度	H27年度
目標	生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ拠点の整備と充実</li> <li>・組織の充実と人材の育成</li> <li>・生涯スポーツの推進</li> </ul>

■H27年度活動目標の説明(事業として何をするか)

- ・各体育施設の3か年修繕計画、備品購入計画の提出を依頼した。
- ・スポーツ少年団の有資格指導者の複数登録義務化による、有資格指導者スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講習会の受講。
- ・市民のニーズにあったスポーツ大会を企画し、子どもから高齢者（障がいをもつ人）まで誰もが生涯を通じて気軽に参加できる生涯スポーツの推進を図る。

(3) 【実績】

	前年度	H27年度
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 みなまたスポーツ祭り実行委員会の開催(4回)</li> <li>2 第1回ニュースポーツ交流会の開催</li> <li>3 スポーツ推進委員による出前教室等の開催</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リニューアル1年目の市民体育祭の開催</li> <li>2 第2回ニュースポーツ交流大会の開催</li> <li>3 スポーツ推進による出前スポーツ教室等ニュースポーツの普及</li> <li>4 各地域におけるスポーツ大会の実施</li> <li>5 市主催のスポーツ大会の実施</li> </ol>

■H27年度実績の説明(目標に対してどの程度達成したか)

- 1 前年度、台風等の影響により中止となつて、リニューアル1年目の市民体育祭は、2,700人余りの参加人数等で、誰もが気軽に参加できるスポーツ祭りとして、リニューアルし、新たに普及を目指すニュースポーツの用具を用いた種目を追加し、ニュースポーツ体験コーナー、出店コーナーを設け、みなまたスポーツ祭りとして開催した。
- 2 第2回目を迎えるニュースポーツ交流大会(玉入れ)は、280名余りの参加人数等で、スポーツを始めるきっかけ作りの一環として、ニュースポーツ体験コーナー、体力測定コーナーを設け、アトラクションに五ツ太鼓、彩流・打蓮を迎えみなまたスポーツ祭りとして開催した。
- 3 スポーツ推進委員協議会が開催する出前スポーツ教室等は、年間700人余りの参加人数で、ニュースポーツの普及及び推進に寄与している。
- 4 各地域においては、運動会、グラウンドゴルフ大会等地域の実情のあったスポーツ大会を開催し、地域交流の拠点づくりに寄与している。
- 5 市主催のスポーツ大会の実施
  - ・競り舟大会は、水俣市の夏の風物詩として定着している大会で、1,200人余りの参加人数等で、市外からも2チームの参加で開催した。
  - ・市民駅伝大会は、ジョギング愛好者が増加するなど、1,100人余りの参加人数等で開催した。

### 3. 状況評価

(1) 成果		点数	理由
○	想定以上に成果があがった	4	スポーツ祭りとして開催している市民体育祭、ニュースポーツ交流大会は、市民のニーズにあったスポーツ大会等の企画、運営等が概ねできており、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけ作りとして、ニュースポーツの普及・推進に寄与している。
	想定どおりの成果であった	2	
	想定を下回った	0	
	想定を大きく下回った	-1	
(2) 効率性		点数	理由
○	大変効率よくできた	3	リニューアル1年目の市民体育祭は、ニュースポーツの種目を追加し、スタッフ、選手に若干の戸惑いもありながらも概ね効率よくできた。ニュースポーツ交流大会は、大盛況の中で終了するなど効率よくできた。
	概ね効率よくできた	2	
	効率がよくなかった	1	
	全く効率が悪かった	0	

#### 【総合評価】

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの (7~6点)
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの (5~4点)
- C 早急の見直しが必要なもの (3~2点)
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの (1~1点)

評価	点数
B	4 点

### 4. 今後の方向性 (課題と見直し)

(1) 課題と方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>3か年継続事業として、水俣芦北地域振興財団助成金を活用し、スポーツ祭りとして開催している市民体育祭、ニュースポーツ交流大会は、来年度で水俣芦北地域振興財団助成金が終了する。</p> <p>スポーツに対する市民意識が、競技志向から健康、体力づくりとしてのレクリエーションスポーツへと変化してきている。今後、個人参加型や観て楽しむスポーツイベントの開催など、スポーツに対する市民の幅広いニーズに応じていくため、市が主催するスポーツイベントのあり方等について、検討する必要があると思っています。</p>					
(2) 改善・見直しの具体的内容					
<p>市民のスポーツへの関わり方には、スポーツをやる・観る・支える等、様々な形態があるため、今後、スポーツイベント等の開催にあたっては、市内企業からの人的支援や協賛等の財政的支援と併せて、市民や関係団体等との協働のあり方について見直しを図る必要があると思っています。</p>					

### 5. 点検評価委員の意見

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
--------	----	----	-----	----	----

市民体育祭を、ニュースポーツ等を取り入れた、誰もが楽しめる「みなまたスポーツ祭り」という新しい形で実行されたことがすばらしい。また出前スポーツ教室では、スポーツ推進員の指導によりスポーツの普及・振興がなされている。スポーツをやる・見る・支える等、市民のスポーツへの関わり方は様々であるので、市民と関係団体等との協働の在り方について、今後見直しを図るという方向性も共感できる。

### 6. 総評

リニューアルされた市民体育祭は、在り方が工夫され、誰もが参加しやすくなった。ニュースポーツは地域・職域・子ども・大人とあらゆるチーム構成で参加でき、生涯スポーツの振興に寄与している。今後更に市民がスポーツに親しむ機会をつくっていただきたい。また体育協会や、スポーツ推進委員の、大会等への支援・協力は感謝するところである。競り舟大会は、水俣の活性化につながる事業であり、更なる発想、企画が望まれる。